

第3学年1組 音楽科学習指導案

授業者 佐々木 朋美

1. 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう
教材名 鑑賞「メヌエット」(ベートーベン作曲)
表現「あの雲のように」(芙籠明子作詞 作曲者不明 飯沼信義編曲)
「山のポルカ」(チェコ民謡 岡部栄彦編曲)

2. 題材について

《 学習指導要領とのかかわり 》

- | | | |
|------|---|---|
| A 表現 | (1) ア | 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。 |
| | イ | 歌詞の内容、曲にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌うこと。 |
| | ウ | 呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。 |
| エ | 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 | |
| | 器楽 | (2) ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。 |
| | イ | 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 |
| ウ | 音色に気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 | |
| | エ | 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 |
| | C 鑑賞 | (1) ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと |
| イ | 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気をつけて聴くこと。 | |
| | ウ | 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。 |
| | [共通事項] | ア (ア) 音色、リズム、 旋律 、音の重なり、拍の流れ、 フレーズ 、
(イ) 反復、変化 |
| イ | 4分の3拍子、タイ | |

(1) 題材観

本題材では、音楽を特徴付けている要素の一つである旋律に着目し、その特徴を体で感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想をとらえたりしながら、表現と鑑賞の活動を進めていくことをねらいとする。またそれらを生かしながら自分の思いや意図をもって表現することもねらいの一つである。

ところで学習指導要領解説音楽編に「各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導にあたっては、音楽との一体感を味わい、創造力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」とある。これまでリズム遊びやリトミックなどを授業の中で取り入れてきたものの、鑑賞の授業では聴き取りの過程で「手をあげる」「その場に立つ」等でしか体を使っての活動を積極的に取り入れてはこなかった。しかし長作小は体育の研究校ということもあり、「千葉市・県一週マラソン」「ダンスカーニバル」など体育的行事も多く、子供達は普段から活発に体を動かすことが多い。そういった経緯から音楽にも「体を動かして感じ取る」活動を少しずつ取り入れていきたいと考え、

昨年からは鑑賞の授業でも各学年に1. 2回ずつ取り入れるようにしてきた。

これまで1年生の「おどるこねこ」では、グループで手をつなぎ輪になって音楽を感じ取る活動を行った。また2年生の「人形のゆめとめざめ」では、リトミックスカーフを使って、子守歌・人形のゆめ・人形の目覚め・人形のおどりを体で感じ取り表現する活動をしてきた。

さらに4年生の「パパゲーノとパパゲーナの二重奏では」ではリトミックスカーフを使って男性の声や女性の声を聴き取ったり、グループになってフラフープを使い音の高さを表したりした。5年生はボールを使って「マンボ No5」を、6年生は紙コップを使って「ハンガリー舞曲第5番」を鑑賞し、速さやゆれを感じ取った。このようにリトミックスカーフだけでなく小物を使ったりしながら、体を使って音楽を感じ取る鑑賞を行っている。

今年度の市教研では小中が連携し、同じ課題やテーマを軸にして互いに関連づけた授業を行う。今回は「鑑賞の学習の中に体を動かす活動を取り入れる」というテーマで、11月には天戸中学校・鈴木先生が、「世界の音楽の学習」で実際に体を使ってケチャの体験の授業を行う予定である。そこでは生徒達はケチャの体験を通して、16ビートを基本としたリズムや反復の独特な音楽の面白さを感じていくに違いない。また実際に体を動かし体験し音楽と一体になることで、鑑賞の授業がより深まっていくであろう。

本題材で使用する曲「メヌエット」はA, Bの音の動きやリズムの違いが分かりやすいため、体を動かすことで音楽を感じ取りながら理解していく方法をとっていく。そして体を動かすことで「このように動いたのはこう感じ取ったから」と考えさせ、それを言語化し友達と伝え合い共有することで、旋律の特徴を理解させていきたい。

また、本校の音楽の授業では音楽専科が1年生は前期のみ・2年生は後期のみ、3年生以降はすべて受け持っている。幸いにも全学年に関わっているので、今後は鑑賞の学習の中に、全学年の系統的な「体を動かして感じ取る活動」のしくみをまとめていきたいと考えている。

(2) 児童の実態 (男子 15名 女子 9名)

本学級の児童は、2年の後期から音楽専科が教室に入り担任と一緒に授業をしてきた。昨年度は児童集会に向けての練習(歌・鍵盤ハーモニカ・手遊び歌・バンブーダンス)や卒業式に向けての歌の指導を中心に支援に入った。また鑑賞では「人形のゆめとめざめ」「中国の踊り」を扱い、リトミックスカーフで感じ取ったことを体を動かして表現したり、バイオリンとフルートの音色を聴きわけて演奏のまねをするという授業を行った。

3年生での鑑賞は、シュトラウスの「鍛冶屋のポルカ」やサンサーンスの「かめ」や「カンガルー」「水族館」を聴いた。「鍛冶屋のポルカ」では「カーン」の音を聴いて手を挙げたり、ハンマーで打つまねをしたり、歌が入った「鍛冶屋のポルカ」と比較して演奏形態の違いを考えたり、それぞれの演奏の良さを話し合った。「かめ」と「水族館」はリトミックスカーフを使って感じ取ったテンポで動いたり、「カンガルー」では音の高さを膝を曲げたりジャンプすることで表した。

また、リコーダー「坂道」「かりかりわたれ」「そよ風」の学習の時には音楽に合わせてボールを転がしてキャッチしたり、拍を感じて歩いたり、拍子に合わせて強拍をクラップした。始めは「音楽に合わせてよう」と声をかけてもなかなかできなかった子供もいたが、拍や拍子を子供と確認しながら進めていくと、音をよく聴き意識しながら活動できるようになった。

本校は4月に「ダンスカーニバル」という学級対抗で行う即興ダンスの行事があるので、音楽でもリトミックやリズム遊びなど体を使った活動が好きな子が多い。本題材の鑑賞も体を使って音楽から感じ取ったことを表現していく。ここではそれらの動きを言語化して、共通事項である旋律やフレーズの変化をまとめ、楽曲の特徴をとらえることで演奏のよさを味わわせていきたい。

(3) 指導観

「あの雲のように」は3拍子の流れにのり、音の上がり下がりを感じ取って曲想に合った声で歌う曲であり、リコーダーにおいても比較的演奏しやすい音域である。その歌に副次的な旋律を重ねることで、響き合いを味わわせていきたい。「山のポルカ」はA→B→Aの構成になっているので、AとBのリズムの違いを感じながらリコーダー奏法を工夫していきたい。

「メヌエット」は、A→B→Aの構成を旋律の音の動きやリズムから感じ取ったり、滑らかで流れるような感じのAと軽やかで弾むような感じのBとで、それぞれの特徴を音の動きやリズムから聴き取ることができ、楽曲の構成を分かりやすく捉えることができる曲である。さらに、主な旋律が一つの楽器（バイオリン）で演奏されているため旋律の動きに着目しやすく、Aの旋律とBの旋律を対比させることで旋律の特徴の違いや曲想の変化を感じ取りやすい。

今回の授業ではリトミックスカーフやリトミックステックを一人ずつ使い、感じ取ったことを体で動かして表現させたい。このような道具を使うことで、拍をとらえる・拍子をとらえる・フレーズをとらえる・音の高低や強弱をとらえるといったことが感覚的に分かりやすくなり、音楽を無意識に感じ取って子供達は体を動かすことができる。そして、それらの体を動かす根拠を言語化し共通事項と結びつけることで、曲の感じや音楽の特徴を理解していくことにつなげることができる。

鑑賞媒体については本来教材CDを使用するが、本校にはバイオリンの演奏、ピアノ演奏に堪能な教職員がいるため、当日はCDを使わずに授業者T2として参加してもらい生演奏の音色の美しさを味わわせたい。ここでは子供が旋律の変化をはっきり聴き取れるように、A Bの旋律の特徴をより分かりやすく演奏する予定である。

3 題材の目標

- (1) 旋律の目標を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを体や言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付く。
- (2) 旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

4 題材の評価基準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>① 旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>① 旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② 旋律の特徴を感じ取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。</p>	<p>① 3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴やその違いを生かしてリコーダーを演奏している。</p> <p>② 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりしてリコーダーを演奏している。</p>	<p>① 楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取り想像したことや感じ取ったことを体で表現したり言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</p>

5 研究の視点について

【視点3】「音楽を形作っている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

鑑賞の学習では、楽器の音色を味わったり曲から感じ取ったことを体で表現することで、音楽を心と体で感じるとともに楽曲の特徴やよさを理解することができる。また感じ取ったことを発表し言語化することで、音楽の特徴や共通事項を共有し、鑑賞学習がより深まっていくと考える。表現と鑑賞は一体であることから、音楽の豊かな表現を目指すと同時によい聴き手を育てていきたい。また、身体活動は単に動くための身体表現ではなく、あくまでも音楽の要素を感じ取るための手段であることも押さえておきたい。

6 題材の指導計画（7時間計画）

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
第一次		ねらい せんりつの上がり下がり気をつけてえんそうしましょう。	
	第1時	<p>○旋律の上がり下がりを感じ取りながら歌う。</p> <p>・歌詞を読んで情景を思い浮かべながら3拍子のながれにのって歌詞唱する。</p> <p>○主な旋律の上がり下がりを感じ取りながら旋律の音の動きに気をつけて歌う。</p>	旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を考え、進んで意欲的に歌おうとしている。(関・意-①演奏観察)

	第2時	<p>○主な旋律の上がり下がりを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏を工夫する。</p> <p>○3拍子の流れにのり、旋律の特徴を生かしながら演奏する。</p> <p>・グループを作り①と②のパートを合わせて、柔らかいきれいな響きで演奏する。</p>	<p>3拍子の流れにのり、旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。</p> <p>(技能-①演奏聴取)</p>
第二次		<p>ねらい</p> <p>せんりつのとくちょうをかんじとってききましょう</p>	
	第3時 (本時)	<p>○旋律の音の上がり下がりやリズムに気をつけて聴き、身体表現したり言葉でまとめる。</p> <p>○バイオリンの音色や楽曲全体を味わって聴く。</p>	<p>・楽曲全体にわたる曲想と、その変化を感じ取り、想像したことや感じ取ったことを体で表現したり言葉で表すなどとして、楽曲の特徴や演奏の良さに気付いて聴いている。</p>
	第4時	<p>○メヌエットに合わせて「舞曲のステップ」を体験する。</p> <p>○「ピアノ独奏版」「オーケストラ版」の「メヌエット」を聴いて比較し、自分の好きなメヌエットを見つける。</p>	<p>(鑑-①行動観察、発表、ワークシートの記入)</p> <p>・旋律の特徴を感じ取り楽曲全体にわたる曲想と、その変化を感じ取って聴く活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関・意-②発言・行動観察・表情観察)</p>
第三次		<p>ねらい</p> <p>せんりつのとくちょうをかんじとってふきましょう。</p>	
	第5時	<p>○旋律の特徴を感じ取り、アの旋律を演奏する。</p> <p>・アーイーアの旋律の特徴に気付く</p> <p>・アを階名唱する。</p> <p>・アをリコーダーで練習する。</p>	<p>範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして、リコーダーを演奏している。</p> <p>(技-②演奏聴取)</p>
	第6時	<p>○旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気をつけて演奏の仕方を工夫する。</p> <p>・イの1と2のパートを階名唱する。</p> <p>・息の使い方やタンギングの仕方を工夫しながら、滑らかに演奏する。</p>	<p>旋律のリズムや特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(創-①発言内容・演奏聴取)</p>
	第7時	<p>○旋律の特徴の違いや曲のまとまりを感じ取りながら演奏する。</p> <p>・アとイのそれぞれの旋律に合ったタンギングに気をつけて演奏する。</p> <p>・2つのグループに分かれ、イの1と2のパートを分担し、アーイーアと通して演奏する。</p>	<p>アとイの旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。(技-③演奏聴取)</p>

7 本時の学習 (3 / 7)

(1) 目標

体を動かしながら音楽を感じ取り、せんりつのとくちょうを見つけよう。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法)
<p>1 今日の「リクエスト」を歌う。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○姿勢や口の開け方などを注意しながら、声をより遠くに飛ばすように助言する。</p>
<p>体を動かしながら音楽を感じ取り、せんりつのとくちょうを見つけよう。</p>	
<p>3 今日演奏する楽器(バイオリン)を確認する。</p> <p>4 「メヌエット」のAの部分聴く。</p> <p>5 もう一度「メヌエット」Aを聴いて、感じ取ったことを身体表現する。</p>	<p>○楽器の名前、大きさ、弦の本数、弓の材質などを確認する。</p> <p>○バイオリンの演奏に注目させる。</p> <p>○リトミックスカーフを使って感じ取ったことを体で表現させる。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆旋律の特徴を感じ取り、曲想とその変化を感じ取って聴く活動に進んで取り組もうとしている。 (関・意の能力ー②行動観察・表情観察)</p> </div> <p>○拍に合っていない、音楽を感じ取れない子供には教師が近くに寄って一緒に動く</p>
<p>6 感じ取った音楽の特徴を発表する。</p> <p>7 「メヌエット」Bの部分聴く。</p> <p>8 「メヌエット」Bを聴いて、感じ取ったことを身体表現する。</p>	<p>○旋律・テンポなど曲の感じを生み出す特徴を教師が板書する。</p> <p>○子供からの発言については、体を動かしながら音楽を聴いてその内容を確認する。</p> <p>○バイオリンの演奏に注目させる。</p> <p>○リトミックスティックを使って感じたことを体で表現させる。</p>

<p>9 感じ取った音楽の特徴を発表する。</p> <p>10 次の音楽を予想する。</p> <p>11 「メヌエット」のAの部分聴く。</p> <p>12 旋律の特徴を図形楽譜で確認する。</p> <p>13 「メヌエット」を最初から通して聴く。 曲の中で好きなところは立ってリトミックスカーフやリトミックスティックを持ち音楽に合わせて動く。</p> <p>14 鑑賞カードを記入する。</p>	<p>○速さの変化や細かな音を感じ取れるよう、Aとの違いに着目させる。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆旋律の音の上がり下がりやリズムが生み出す曲想の違いに気をつけて聴き取り、体で表現している。(鑑一①行動観察・発表)</p> </div> <p>○音の高さの変化・繰り返し・テンポなど曲の感じを生み出す特徴を箇条書きで板書する。</p> <p>○子供からの発言については、体を動かしながら音楽を聴いて確認する。</p> <p>○A-Bと進んできた音楽の次はどんな音楽なのかを予想して発表させる。</p> <p>○曲を聴いた後に、A-B-Aの構成を確認する。</p> <p>○既習曲でA-B-Aの形式の曲を確認する。</p> <p>○音の色をつないだ図形楽譜を見せて、発表で出された旋律の特徴(滑らかで美しい旋律A・軽やかで弾むような旋律B)を確認する。</p> <p>○曲名を確認する。</p> <p>○何か所立ってもよいことと、リトミックスカーフやリトミックスティックのどちらを使ってもいいことを確認する。</p> <p>○AとBの中でどの部分が体を動かしやすいか、その理由も記入させる。</p>
--	---